

図書館見学バスツアー

平成14年12月6日（金）実施

チラシや新聞を見て申し込んでくださった方々なども合わせて、29名で小型バスに乗り、小杉町民図書館と八尾町立図書館ほんの森へ行ってきました。

午前中の小杉では、参納哲郎館長のミニ講演会とボランティアの方々とのお弁当をいただきながらの交流会があり、ただ利用するだけでは分からない見学会ならではの中身の濃い内容を知ることが出来ました。

午後からの八尾のほんの森は、広大な駐車場とたくさんの絵本が表紙を見せるレイアウトが魅力的でした。利用者のターゲットは親子連れというだけあって町外からの利用者がどんどん増えているそうです。両館を1日で見られたことで、利用者のニーズを追求すると個性的な図書館を作ることができるのだと実感でき、とても有意義な見学ツアーになりました。以下、参加された方々の感想です。

●図書館見学バスツアー参加者感想

- * 小杉の図書館は利用者としてよく来ていましたが、今まで知らなかった資料や施設があって面白かったです。図書館職員の方の裏のご苦労の一端も見ることができ勉強になりました。小杉の館長さんがとても面白い方で楽しかったです。
- * 小杉町民図書館では、やわらかな外観に、確信に満ちて管理運営されているスタッフのみなさんに感激しました。また学校図書館とネットワークがあり、これらの核になっている点も長い活動のたまものでしょう、すばらしいなと思いました。飲み物コーナーがあるのもホットします。独自の工夫があらわれて見えて「生きている、成長している図書館」と感じました。八尾の図書館も明るくCDビデオ、パソコンがいっぱいで驚きました。また、いずれの図書館もおはなしスペースは空間を戸やカーテンで仕切ることができ、子どもとたちがおはなしを聞く雰囲気になれるだろうと思うとうれしいです。せっかく畳などのコーナーがあっても、子ども未来館のようなOPENなスペースは、騒音もあって生かされないと思います。また八尾のほんの森では、1階からの騒音が図書館に聞こえるらしいですね。イメージとしては図書館というより本のある広場ってかんじがしました。
- * 小杉町民図書館の施設のすばらしさもさることながら、館長さんのお話は本当に興味深いものばかりでした。図書館を設立されるにあたってのご苦労がうかがえます。身近にあのような図書館があればと思うばかりです。八尾の図書館も開放的で子どもと一緒に入りやすく、毎日通いたくなる空間でした。富山市の図書館は駐車場は足りないし、ゆっくり探せるような雰囲気ではないので、居心地のよい図書館を望みます。
- * 良かったです。小杉町民図書館長の図書館にかける情熱がさりげない言葉で感じられまた図書館を利用しているだけでは分からなかった色々な苦労や問題に触れる良い機会でした。各図書館に司書がいらっしゃるのと同様、学校内にも常時司書がいらして下さると色々、子ども達と先生方のサポートができると思いました。
- * 小杉、八尾両図書館を見学させていただき、住民の、住民による、住民のための図書館運営に徹している姿勢を知りました。行政当局の意識を両町のように、いかに改革させるかが今後の課題と痛感しました。

- * 2つの図書館各々、大変面白かったです。どのような図書館を作るかの構想を語れる人が中枢にいると本当に使いやすい図書館ができるのだとつくづく思いました。ゆっくりと落ち着いて本を読めるような設備も含めて、IT時代にふさわしい機能的で居住性の良いものを作ってほしいと、しみじみ思いました。また人（職員）のことも忘れてはならないことと思いました。
- * 小杉町民図書館はとても印象に残りました。館内の雰囲気も違いました。館長が素晴らしく、図書館建設時から、利用者のことを考え、確固たる理念を通された結果が大成功につながっていると感じました。建物という器以上に、館長や司書の運営方法で、図書館が全く違ってくるのがよく分かりました。本のリサイクルのシステム也大賛成ですが、かなり労力がいるということも見学してわかりました。でもボランティアがうまく機能していますね。八尾ほんの森に、ティーンズコーナーがあるのが良いなと思いました。新しい富山市立図書館は、駐車場を確保し、シャトルバスも走らせてほしいです。
- * 図書館という箱じゃなく、どういう目的で図書館を利用したいかを考えなければいけないと感じました。只今、子育て中なので、図書館からの人づくり、人が町を作るという言葉がとても考えさせられました。小杉、八尾ともすばらしい館だったと思います。じつは私は、富山に来て7年。まだ富山市立中央館には足を運んだことがありません。というのも、「駐車場が……」という声をあちこちから聞いていたため、分館で用を済ませていました。小杉の館長さんのお人柄がとてもあらわれていて、ぜひあのような方に富山市もお願いしたいです。
- * 新しい酒は新しい皮袋に。時代のニーズや情報の形態に合わせて、対象を分化させて特徴を付ける、なるほどそうなんだろう。限られた予算の中で、図書館機能を充実させる様々な考え方がある。財政規模や町の形態、住民意識、学校図書館との結合、駅に併設した図書館、そしてコミュニティーセンター。それぞれのよいところ、問題点が整理されると良い。時間経過のシュミレーションが必要。新しくなくても、ニーズに応じて変える方法や時には分館を充実させ、機能を分担したり、変えないことも必要なのかも。
- * 小杉の館長さんの話は分かりやすく良かった。考え方が形になっていることが分かった。ボランティアに対する考え方も納得。ただ、子ども、親子、学生以外の大人の利用者のイメージがいまひとつ分からなかった。八尾は図書館機能の1／3だけを見たと言うことだと思うが、大人にとってはちょっと物足りなかった。
- * 今、学校の図書館を変えようと、色々な方法を思案している私たちにとって今回の企画はとても参考になりました。考える会が、学校図書館だけでなく、市立図書館の事も本格的に取り組まれていくのだということも興味深いことでした。特に小杉の館長さんのように、様々な面から図書館を考えていくように富山市もお願いできたらと思います。
- * 両図書館とも、親子でカードを作って利用してみたいと思いました。子どもがどう利用するかを楽しみにみてみたいと思います。小杉は木の書架に暖かさを感じましたし、館長さんの一言一言になるほどと思えました。
- * 本棚が木製だと暖かい雰囲気になり良かった。絵本も表紙が表に見えるように並べてあると、つい手にとって見てみたくなる。駐車場が広い図書館が良い。こんな図書館がそばにあればうれしいなと感じました。
- * たいへん参考になりました。図書館は「人」ですね。まず図書館長をスカウトしてから、図書館建設にかかるという方法は、栗東町立図書館もとっていた。ソフト（運営）がやはりすばらしい。ハコモノと人（図書館を作るときから計画的にかかわる）の相互作用でいい図書館を建てましょう。
- * 私は校下のボランティアを始めたばかりです。八尾ほんの森のビデオルームや中国史の蔵書がちょっとうらやましかったです。

*生活の一部として、違和感のない図書館があるというのは、喜びを感じました。小杉も八尾も子ども達や親子の利用がしやすく、また刺激に富んだ形で文化の香りに満ちていたのが印象的です。富山市立図書館も、小杉や八尾の良さを踏襲しつつサラリーマンや学生の研究に応じられるような参考図書の充実を望みます。

ちょっと補足します。

館長 小杉町民図書館の参納哲郎館長は、富山県立図書館の副館長を退職され、小杉町の新しい図書館建設のために元町長からの強い要請を受けて館長になられた方です。参納館長は司書資格をもち、図書館員としてずっと富山県内の図書館を引っ張り、全国でも著名な研究者です。司書資格をもつ館長は、県内でもそう多くはなく、富山市立図書館は現在9代目の館長にあたり、初代から4代と8代目の方が司書館長です。

リサイクル本 家庭で不要になった本を、図書館で整備し、必要な方に提供するサービスです。小杉町ではこれにかかわるボランティアがいますし、八尾でも年の1回、リサイクル市としてサービスを行っています。富山市立図書館も3年前に行いました。

ボランティア 小杉町民図書館では、8つのボランティアグループが組織されていますが、職員の仕事の肩代わりになるようなグループは作らず、ボランティアの心得もきちんと伝えておられます。活動を通して町民が生涯学習を深める場所を提供するのも、図書館のサービスというのが小杉の位置づけです。

学校図書館ルーム 小杉町では各小・中学校に1人ずつの学校司書が配置されています。町民図書館は学校図書館への支援を子どもの読書環境整備と位置づけ、学校司書が集い研修を行える部屋を設けています。

情報提供システム 八尾町立図書館は、県内では初めてインターネットで予約を受け付けるなどの情報サービスを提供しているところです。また、町が制作した郷土資料DVDを町の中のある他の2館と同時に検索し、視聴することができるようになっています。